

米ノ日ニ臨ム地理上ノ至便果シテ如何ソヤ米ノ窶カニ東半島ニ垂涎スルモノ付度ニ難カラサル也

籲ツテ露ノ現況ヲ觀ルニ物資ノ欠乏ハ其極ニ達シ紙幣ハ下落シテ無償ノ紙片ニ化セルニアラスヤ左レハ露ノ領土中從來經營難ヲ唱ヘ余リニ重視セサル東半島ヲ一國ノ命脈ヲ維ク為ニ先ツ之ヲ犠牲ニ供スルハ親易キ情勢タルニアラスヤ米露兩國ノ情勢其レ斯ノ如シ我等カ此ノ風説ニ寒心スルモノ決シテ以ナシト謂フ可カラス若シ然ルカ如キアラハ我帝國ハ如何ニシテ之ヲ阻止セントスル乎

或ハ曰ハン縱令ヒ売買成立スルモ日露漁業協約ノ權利ハ依然之ニ附随シ米國ト雖モ之ヲ無視スル能ハサルニアラスヤト然レトモ米國ハ該協約附帶スルモ何等障礙ト為サザル可シ何トナレバ協約上ニ於ケル我帝國民ノ租借權ナルモノハ競争入札ニ拠ツテ定マルモノニ過キサルカ故ニ米國事業家ノ豊カナル資本ト大ナル組織トヲ以テ競売場裏ニ立ツ我漁業者ハ乍残念無抵抗ヲ以テ敗退スルノ外ナキヲ熟知スレハナリ

如斯ナラハ戰勝ノ獲物ノ一タル日露漁業協約ナルモノ只タ一片ノ空文ヲ紙上ニ留ムルニ終ラン

是ニ於テ乎我等ハ日露漁業協約上ニ於ケル我帝國ノ權利即チ租借權ヲ速カニ確立スルノ急要ナルヲ叫ハサルヲ得ス然ラハ租借權ヲ獲得スル方法如何曰ク或ハ軍事上ノ援助或ハ金員等其ノ手段ハ蓋シ幾様モアル可シ

數歩ヲ退キ東半島売買ハ風説ニ止マルトセンモ日露漁業協約ノ更新期ハ実ニ明後年ニ迫レリ而シテ更新又ハ改正談判ニ依ツテ獲ル所ノモノハ蓋シ我等ノ希望ノ幾分ニ過キサルヲ予知スルニ難カラス故ニ今ニ於テ租借權ヲ確立シ更新談判ニ由ツテ獲ル所ノモノヨリヨリ以上ノ大ナル利權ヲ獲得スルノ良策タルヲ知ル而シテ今ノ時ハ実ニ是レ絶好ノ機會タリ此機一タヒ逸ス世界ニ於ケル一大漁場ノ大利權ヲ失ヒ他日臍ヲ噬ムモ及フナケン幸ニ当局ハ果斷ノ処措ニ出デラレンコトヲ邦家百年ノ大計ノ為ニ切望ノ至リニ堪ヘサル也

事項八 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件

二五八 三月三日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

三月一日開會ノ英領コロンビア州議會ニ於テ

ハ排日的問題發生セザルベキ旨報告ノ件

第八号

種々ノ事情ニ依リ延期シ来リタル「ビー、シー」州議會ハ昨日開會本官ハ同日開院式及知事ノ official dinnerニ参列シ閣員及反對党首領等ト談話ノ機會ヲ得タルカ其ノ口吻ニ依レハ本期議會ニ於テハ格別排日的問題發生セサルモノノ如ク察セラル尤目下出征兵士帰還後ニ於ケル善後方ニ関シ労働問題頻リニ朝野ノ間ニ研究セラレ同時ニ東洋人排斥ノ声揚カリ居ル際ナレハ日本人ニ関シテモ何時如何ナル議案提起セラレサルヲ保セス

昨日ノ紙上ニ暴露サレタル独逸ノ日墨捲込策ハ晚餐席上話題トナリタリシモ日本カ独逸ニ款ヲ通スルカ如キコトナキヲ信シ居レルモ曩ニ日本カ墨國ニ武器ヲ供給セリトノ新聞

八 「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二五八 二五九

電報ト相待チテ多少帝國ノ行動ニ対シ不安ノ念ヲ挟ム模様モ見エサルニアラス

二五九 三月十七日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

本邦移民渡航制限緩和ヲ加奈陀政府ニ交渉方

ニ關スル件

附屬書 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ在オタワ沼野總領事宛阿往機密第二號寫

機密公第五号 (四月十日接受)

大正六年三月十七日

在晚香坡領事 浮田 郷次（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ関シ別紙寫ノ通り在オタワ沼野總領事へ申進置候条御査閱相成度此段申進候 敬具

（附屬書）

阿往機密第二號

大正六年三月十七日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次

在オタワ総領事 沼野安太郎殿

本邦移民來航制限緩和方ニ關スル件

勞働ノ目的ヲ以テ新タニ加奈陀へ入國スル本邦移民ハ「ルミュー」協約ニヨリ當國在留本邦人ノ呼寄セニ係ル定着農夫及家内使用人四百名以内ニ制限致サレ居リ候處歐洲戰亂以前ニアリテハ白人勞働者ノ數モ少ナカラザリシヨリ單ニ當國在留本邦人ノ呼寄セニヨル移民トシテハ右四百名以内ニテ差シタル不便ヲ感セズ又戰爭開始ノ當初ニアリテハ從來繁盛ヲ極メタル當州産業ハ一頓挫ヲ來シ就中投機的ニ昂騰セシメ來リタル地價ノ暴落ハ未曾有ノ不景氣ヲ現出シ爲メニ勞働賃金モ一昨年九月以降昨年四月頃迄ハ「ソーミル」働キ一日僅ニ七十五仙ノ低價トナリ生計困難ノ爲メ米國方面ニ流出スル白人勞働者モ少ナカラズ從テ米國ニ入ルコトヲ得ザル本邦勞働者中歸國スル者亦多數ニシテ即チ大正三年中ノ歸國者千三百六十八名大正四年中ノ歸國者千二百三十九名ノ多數ニ上リ候依テ當時ニ於テハ本邦ヨリ多數ノ新渡航者アルトキハ却ツテ在留一般勞働者ヲシテ一層困難ニ

陥ラシムル虞アリシヨリ定着農夫及家内使用人ノ呼寄セモ戰爭前ト大差ナク即チ大正三年九十二人同四年百二人ニ過ギス候然ルニ其後當州モ漸次景氣ヲ挽回シ勞働賃金ノ如キモ目下ハ一日平均貳弗以上ト相成リ他方ニ於テ當州全體ノ人口ハ募兵ノ爲メ著シク減退シ鑛夫、鐵道工夫、農夫、漁夫等一般勞働者ノ不足ヲ來タシ居リ候ハ申ス迄ニモ無之且又日本人トシテハ曩ニ歸國シタルモノ少ナカラザルニ加ヘ大正三、四年中ノ呼寄數著シク少キガ上義勇兵トシテ加奈陀軍ニ應募セルモノノミニテモ百六十九名ノ多キニ上レル等諸種ノ事情ノ下ニ勞働者ノ不足ヲ一層痛切ニ感ゼシムルノ狀態ニテ當地在留白人ノ有力ナル實業家ヨリモ弗々小官ニ對シ日本人勞働者ノ不足ヲ訴へ來リ現狀ニテハ少クモ數千ノ移民ヲ要スル旨申出居ルノ有様ニ有之候特ニ在留本邦人實業者並ニ農業家ノ如キハ曩ニ不景氣ノ際歸國及呼寄見合せ等ニヨリ雇人ヲ減ジタル反動トシテ昨年秋頃ヨリ俄ニ手不足トナリ當館ニ對シ呼寄願ヲ呈出スルモノ續々有之一々事情ヲ取調ブルニ悉ク尤モノ言分ニシテ事業ノ發展上其呼寄セヲ必要トスルモノト被認候處從來ノ振合モ有之俄ニ呼寄證明ノ發給ヲ激増スルモ面白カラズトテ前任阿部領事

本省へ稟議致度候ニツキ何分ノ御意見承知致度此段申進候

敬具

本信写送付先 本省

二六〇 三月十九日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

英領コロンビア州在留帰化日本人ノ選挙権獲

得運動ニ付報告ノ件

機密公第六号 (四月十日接受)

大正六年三月十九日

在晚香坡領事 浮 田 郷 次 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

當州在留ノ本邦人ニシテ當國ニ帰化セルモノハ極メテ多數ニ有之候処御承知ノ通り之等帰化人ハ白人種ト異リ選挙権其他各種ノ特權ヲ附与セラレ居ラザルヨリ邦人将来ノ發展上各方面ニ於テ障礙ヲ免レザルヲ以テ選挙権ノ獲得ハ永年當州在留帰化日本人等ニ於テ希望スル所ニ有之候処先般之等帰化人中義勇兵トシテ加奈陀軍ニ加ハリ出征セルモノ少ナカラザリシヨリ加奈陀日本人会長山崎寧ハ過般來此機會ヲ利用シ内々選挙権獲得ノ運動ヲ開始シ別紙ノ通り當州首

相トノ往復文写ヲ本官ノ参考迄ニ提出致来リ候、原来日本人会ガ国交ニ関スル運動ヲ直接当国政府ト交渉スルガ如キハ曩ニ大正四年五月十四日通機密送第四号ヲ以テ御訓令ノ次第モ有之前記選挙権獲得運動ノ如キ事ハ帰化日本人ニ関スル問題ナルモ延イテハ日加問題ニ影響ヲ及ボスモノアルニヨリ当館ニ於テモ相当注意ヲ怠ラザル次第ニ有之候ヘ共帰化日本人ノ問題ニ就テハ從來当館ニ於テハ傍觀的ノ態度ヲ維持シ居リタル關係モ有之且ハ此際此種ノ交渉ヲ進ムルトモ差シタル障害ヲ与フルモノトモ思ハレズ寧ロ帰化人トシテ選挙権ヲ得ントスルノ希望ハ当然ノ要求ト思考被致旁々本件交渉ニ関シテハ從來通り其黙過致居候間右様御了承相成度往復文書写相添ヘ此段申進候 敬具

註 別紙B、C、州首相トノ往復文書省略

二六一 三月二十五日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

英領コロンビア州在留帰化日本人ノ選挙権獲得運動ニ関スル「ヴァンクーヴァー」諸新聞

ノ報道ニ付報告ノ件

機密公第七号

(四月十七日接受)

大正六年三月二十五日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ関シテハ本月十九日付機密公第六号ヲ以テ加奈陀日本人会長山崎寧ガ過般来此機会ヲ利用シ内々選挙権獲得ノ運動ニ従事シ居レル次第及報告置候処翌二十日当地「プロヴィンス」新聞記者ハ本官ヲ来訪シ最近「オタワ」ヨリノ来电ニヨルニ当州在留ノ帰化日本人ガ当州政府ニ対シ選挙権獲得ノ運動ヲ開始シ居ル趣ナルガ右ハ事実ナルヤ否ヤ並ニ之ニ対スル本官ノ意見ヲ尋ネタルヲ以テ本官ハ右ノ事実ハ聞知シ居ルモ原来帰化日本人ハ本官ノ管轄外ナルヲ以テ本件ニ関シ領事トシテハ何等ノ意見ヲモ有セズ日本人ガ他国ニ帰化スルガ如キハ望マシキコトニアラザルモ単ニ個人トシテノ立場ヨリ考フル時ハ既ニ当国ニ帰化シテ英国ノ忠良ナル臣民タル以上他ノ帰化人ト同様ニ選挙権ヲ獲得セントスルハ当然ノ要求ナリト思ハル当国ニ於ケル日本人ハ一万内外ヲ算シ重ニ当「ビー、シー」州ニ在留シ居ルモ其内帰化セルモノ少ナカラザルヲ以テ事実本官ノ管轄ニ属スル日本人トシテハ七千人位ナラン然シテ帰化日本人ノ多クハ此国

ニ永住ノ覚悟ニテ内約二百ハ現ニ加奈陀軍ニ加ハリ出征シ居レリ且当国ニ出生シテ当国ノ教育ヲ受ケ居ルモノモ亦少ナカラズ之等ガ帰化人トシテ選挙権ヲ要求スルコトハ極メテ至当ノコトナラン本官ハ唯加奈陀帰化日本人ガ斯卡ル運動ヲナシ居ルコトヲ聞知シタル迄ニシテ詳細ノコトハ承知セズト談話シ置キタル処同記者ハ其ヨリ加奈陀日本人会ニ到リ同会ノ内山幹事ニ就キ詳細ノ事情ヲ聞訊シ同日ノ夕刊紙上ニ於テ前記内山幹事ノ談話トシテ記載セル所ヲ見ルニ『当州ニ於ケル帰化日本人ハ其数約二千人ニシテ目下弁護

士 Sir Charles Hibbert Tupper ノ手ヲ經テ選挙権獲得

方ヲ当局ト交渉中ナルガ原来我々帰化人(内山幹事自身モ帰化人ナリ)ハ本ヨリ当国ニ永住ノ精神ナルガ何等カ事件発生ノ時日本領事ニ請願スルモ管轄外ナリトテ拒絕セラレ更ニ当国政府ヨリハ選挙権サヘモ認めラレザル苦境ニアルモノナリ然ルニモ拘ハラズ我々ハ英国皇帝陛下ノ一臣民トシテ既ニ二百余名ノ帰化日本人ハ加奈陀軍ニ加ハリテ出征シツツアリ其内佐藤徳次ノ如キ殊勲ヲ以テ「ヴィクトリア、クロッス」ヲ贈与セラレタルモノモアリ斯クノ如キ忠良ノ臣民ニ対シテ選挙権ヲ附与セラレザ

ハ「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二六一

ルノ理由ヲ知ル能ハズ尚又当国ノ学校ニハ日本人ノ子弟モ少ナカラズ之等ガ常ニ優等ノ成績ヲ占メ居ル点ヨリ考フルモ智識ニ於テ英人ノ子弟ト何等ノ差異アルヲ見ズ況ンヤ加奈陀ニ於テ帰化日本人ガ選挙権ヲ得ザルハ単ニ「ビー、シー」州ノミニシテ「アルバータ」州始メ他州ハ悉ク英人ト同一ノ權利ヲ附与セラレツツアリ之等諸方面ヨリ見ルモ当州ノ帰化日本人ニ選挙権ヲ附与セラルルハ至当ノコトナラン』ト

右内山幹事ノ談話ト共ニ本官ノ談話ヲモ同紙ニ掲載シアリ其他ノ諸新聞ニモ大同小異ノ記事アリ特ニ News Advertiser ノ如キハ有力ナル白人労働者ノ団体タル Labour Council ノ President タル I. H. Mcvety ノ談話トシテ

「本団体ニ於テハ日本人ニ選挙権ヲ附与スルコトニ対シテ嘗テ反対ノ宣言ヲナシタルコトモナク東洋人ノ入国ニハ反対シタルコトアルモ一旦入国シタル以上帰化シタルモノニ選挙権ヲ与フルコトニ対シテハ之ニ賛成シ居ルモノモ少ナカラザルベシ原来白人ガ東洋人労働者ノ入国ニ反対シタル理由ハ彼等ノ同化不可能ニシテ其生活程度ガ

余リニ低位ニアリシニヨルモノナリト雖モ既ニ当国ニ帰化シタル以上ハ歐洲人ト同一ノ權利ヲ附与セラルベキ筈ナリ目下当州ニ於テハ東洋人一ニ対シ白人三、五ノ割合ニシテ労働者階級ノ投票ハ減少セルモノト見ルヲ得ベク依テ多数ノ選挙権ヲ有セザル東洋人ハ間接ニ保守党側ノ成效ニ貢献スル所アルナランモ若シ之等ニ選挙権ヲ附与セラルルコトナラバ之ヲ労働者側ニ引込ムコトヲ得ベシ」云々ト記載セリ

本件ニ関スル当地及「ヴィクトリア」ニ於ケル新聞記事ハ大体ニ於テ帰化日本人ガ選挙権ヲ獲得セントスルノ希望ヲ至当ノ要求トシテ是認スルモノノ如ク未ダ反対ノ論評アルヲ見ズ尤モ加奈陀日本人会側ニ於テ目下交渉ヲ進メツアルモノハ主トシテ加奈陀軍ニ加ハリテ出征セル邦人義勇兵ノ選挙権ヲ認メシメントスルニアリ此点ニ関シテハ当路者ニ於テモ目下考量中ナルモノノ如ク先般「プロヴィンス」ノ記者ガ「オタワ」ヨリ本件ニ関シ電報アリタリト云フハ或ハ本官ヲ釣ラントスル口実タリシヤモ計ラレズ候ヘ共事実ニ於テ目下当州首相ハ「オタワ」若クハ本国政府ニ対シ本件ノ処置方ヲ協議シ居ルニアラズヤト思ハルル節ナキニ

(附屬書)

寫

晚往機密第一號

大正六年三月二十九日

在オタワ総領事 沼野 安太郎 (印)

在晚香坡領事 浮田 郷次殿

本邦移民加奈陀渡航制限緩和方ニ関スル件

本月二十七日付阿往機密第二號貴信ヲ以テ本邦移民加奈陀渡航制限ニ關スル現行取極ヲ改訂シ其ノ最高限度ヲ現在ノ倍數ニ増加スルノ議ニ關シ御來示ノ趣敬承、然ルニ右制限及取締ハ帝國政府カ加奈陀ニ對シ過去八九年間恪守シ來リタル大方針ニシテ日英通商條約及英領哥倫比亞州移民入國禁止令等ニモ關係アリ單ニ労働市場ニ於ケル需要供給ノ關係ニ依ル一時的現象ニ基キ俄ニ之カ紛更ヲ許ササル國策ナリト了解セラルル理由アルノミナラス其他種々ノ理由(別項第一乃至第五)ニヨリ當分右制限ヲ恪守スルノ外ナカルヘク若シ萬一帝國政府ニ於テ從來ノ對加移民方針ヲ根蒂ヨリ一變スルコトナリタル場合ヲ假定スルモ愚見ヲ以テスレハ當國政界ノ現狀並東印度人トノ關係等ニ顧ミ(後段甲

アラズ孰レニシテモ帰化日本人ガ斯卡ル要求ヲナストセバ現在ヲ以テ最モ適當ノ時機ト認メラレ選挙権ノ獲得ハ永住ノ目的ヲ以テ当州ニ在留スル邦人ニ対シテハ他ニ惡影響ナキ限り望マシキコトナルヲ以テ本件ハ前信ニモ申進置候通リ本官ニ於テハ依然然過ノ態度ヲ持シ成行ニ任スコト致置候条御承知相成度報告旁此段申進候 敬具
本信写送付先 オタワ総領事

二六二 三月三十一日 在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛

本邦移民渡航制限緩和ヲ加奈陀政府ニ提議スルノ案ニ賛同シ難キ旨所見開陳ノ件

附屬書

三月二十九日附在オタワ沼野總領事ヨリ在ヴ
アンクローヴァー浮田領事宛晚往機密第一號寫
機密公第四号 (四月二十六日接受)

大正六年三月三十一日

在オタワ総領事 沼野 安太郎 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

本件ニ関シ別紙ノ通在晚香坡浮田領事宛及回答置候ニ就テハ右為御参考供貴覽度右写相添此段申進候 敬具

乃至丙)他ニ重大ナル特殊ノ理由存セサル限り當國政府ニ對シ今日斯ル提議ヲナスハ決シテ其ノ時機ヲ得タルモノニ非スト思致候、左ニ卑見開陳致候

(第一) 日本ハ加奈陀(及米國)ノ如キ經濟及生活狀態ノ著シク懸隔セル國ニ對シテハ斯ル著シキ懸隔存續スル限リ彼等ノ好マサル労働移民ヲ多數ニ入國セシメントスル企劃ヲ拋棄スルヲ要ス、若シ強テ之ヲ遂行セントセハ反リテ惡結果ヲ生シ延テハ日加兩國ノ親善ヲ害スルニ至ルノ虞アリ宜シク労働ノ利ヲ趁ハス通商貿易企業技藝ノ利ニ就クヲ可トス蓋シ所謂「ルミュー、アングスタンデング」ノ成立モ亦此趣旨ニ出テタルモノニ外ナラサルヘク從テ爾來兩國ノ關係ハ漸次良好ニ向ヒ大正二年春加奈陀ハ日英通商航海條約ニ加入スルニ至リ同時ニ帝國政府ハ加奈陀政府ニ對シ當時「オタワ」在勤中村總領事ヲシテ『労働者ノ加奈陀移住ニ關シ千九百八年以來實行シ來リタル制限及取締ヲ從來ト均シク有効ニ維持スルノ覺悟』ナル旨宣言ヲナサシメタリ、然レトモ右加奈陀ノ日英條約加入ハ同條約第二十六條ノ規定ニ依ルモノニシテ同條約第二十七條第二項ニ依レハ右加入ハ『何時ニテモ十二

ケ月ノ豫告ヲ以テ本條約ヲ終了セシムル』ヲ得ルモノナルヲ以テ若シ加奈陀政府ニシテ右宣言ノ趣旨ヲ帝國政府ニ於テ紛更セントスルノ企圖アルヲ察知スルニ至ラハ或ハ前記第二十七條第二項ノ規定ニヨリ其條約加入ヲ撤去スルニ至ルコトナキヲ保セス

(第二) 千九百十三年十二月十三日發布英領哥倫比亞州移民入國禁止令ヲ事實上日本人ニ適用セサル日加兩國間内密ノ了解モ亦大正三年一月八日付矢田總領事宛當國內務大臣ノ「ノート、ヴェルヴァル」及同大臣機密來東ニモ記載ノ通り「ルミュー、アンダスタンデング」ヲ日本政府ニ於テ誠實ニ恪守シ其實際ノ取締モ亦相當有効ナルコトヲ認メタルニ職由スルモノナルコト明ナリ故ニ若シ將來此制限及取締ヲ弛緩セシムルカ如キコトアラハ加奈陀政府ハ日本ニ對スル前記内密ノ了解ヲ將來撤止スルニ至ルヤモ未タ知ルヘカラス

(第三) 加奈陀ニ於ケル企業家、工場主、鑛山主等ノ資本家階級カ日本移民ノ渡來ヲ渴望スルハ今日ニ始マリタルニ非ス彼等ノ利己的見地ヨリスレハ何時ニテモ多數ノ日本人ヲ誘入シ高賃擅恣ナル白哲労働者ニ代ヘンコトヲ欲

タル場合ニ於テ日本ハ當ニ一物ヲ得サルニ終ルノミナラス對加移民調節ノ基礎ヲ動搖セシメ加奈陀ノミナラス延テハ米國ヲシテ移民制限ニ對スル日本ノ誠意ニ疑念ヲ挿マシムルニ至リ今後日本ノ一般施設及交渉上恒久ノ陰翳ヲ宿シテ無形ノ不利^{モラル}是ヨリ大ナルハナシ

以上ハ移民制限改訂ノ提議ヲ當分不可ナリトスル主ナル一般の理由ナルカ更ニ進ンテ今日斯ル提議ヲナスノ不可ナル所以ヲ述フレハ左ノ如シ

(甲) 現保守党政府ハ歐洲出兵ニ伴ヒ種々ナル政事の紛糾ヲ醸生シ來ル四月再開セラルヘキ加奈陀議會ニ於テハ朝野兩政黨間ニ劇烈ナル政爭ヲ開展スルニ至ランコト何人モ疑ヲ容レサル所ナルカ其ノ結果或ハ總選舉ヲ見ルニ至ルヤモ難測要スルニ今期ノ議會ハ現政府ノ運命ヲ決スヘキ重大ナル政機ノ伏在スルモノアルヲ以テ政府ハ些少タリトモ在野黨ニ攻撃ノ材料ヲ供スヘキ性質ノ事項ハ事ノ大小ヲ論セス畧メテ之ヲ迴避スヘキコト一點ノ疑ヲ容ルヘカラス而シテ日本移民制限ノ門戸ヲ擴大スルカ如キ措置ハ在野黨ニトリテハ屈強ナル政府攻撃ノ武器ナルヲ以テ現政府カスル提議ニ對シ一言ノ下ニ之ヲ邀還スヘキハ

スルハ理ノ當然ナリト雖モ労働團體ノ之ニ對スル態度モ亦今尚旧ノ如ク依然トシテ日本労働者ヲ極力排斥セントスルニアル以上其ノ反對ヲ無視シ多數ノ日本労働者ヲ誘入スルトキハ十年前ノ紛糾ヲ再演スルニ至ルノ虞アリ今後ト雖モ日本労働者排斥ノ聲ハ日加兩國間ノ社會及經濟狀態カ今日ノ如ク著シク懸隔セル限り依然繼續スルモノト見ルノ外ナキナリ

(第四) 況ンヤ一方ニ於テ歐洲大戰ノ終結ト同時ニ多數ノ歐洲移民一時ニ此大陸ニ墜至スヘク且五十萬人ノ歸^{リターン}還^兵ニ對シ夫々適當ナル就職ノ途ヲ開クノ必要ニ迫ラレツツアル加奈陀ノ労働市場ハ戰後一時ニ供給過多ノ怨嗟ヲ以テ充塞セラルルニ至ランコト火ヲ睹ルヨリモ明ナリ此危機ニ際シ日本カ若シ移民制限及取締ヲ些少タリトモ弛緩シツツアリタル形跡ヲ發見セハ彼等ハ忽チ罪ヲ日本移民ニ轉嫁シ再ヒ劇烈ナル制限ヲ當局ニ要求スルニ至ルヤ必セリ、是レ今ヨリ篤ト警戒ヲ要スル點ニシテ加奈陀ニ對スル本邦移民調節ノ衝ニ當ルモノノ未雨ニ牖戸綢繆ヲ忽ニスヘカラサル所ナリ

(第五) 萬一制限改訂ノ提議ヲナシ加奈陀政府之ヲ邀還シ

殆ント豫想スルニ難カラス

(乙) 今次歐洲戰爭ノ結果東印度人^{ヒンズー}ノ英帝國內ニ於ケル地位ハ多少改善セラルヘキ徵象アリ現ニ其ノ加奈陀入國制限緩和方ニ關シ當國政府ニ建議シタルモノアリ此建議ハ英帝國ノタメニ多大ノ生命財産ヲ犠牲トシテ戰ヒツツアル東印度人ノ入國取締ヲ日本人ト同等ナラシメントスル希望ヲ表明セリ而シテ斯ル有力ナル理由アルニ拘ハラズ東印度人ニ對スル待遇ヲ緩和スルハ労働團體ノ反抗ニ顧ミ當國政府ノ至難トスル所ナルト均シク日本人ノ制限ヲ現状以上ニ緩和セントスルノ提議ニ對シテハ東印度人トノ權衡上當國政府ハ更ニ一層之カ考量ヲ難ンスヘキハ言ヲ埃タス(尤モ東印度人カ他ノ歐洲人ト全然對等ノ取扱ヲ以テ入國シ得ルカ如キ根本的變革ヲ見ルニ至ル場合アリトセハ日本人ノ入加ニ關シテモ亦是ヲ有利ニ援用シ得ヘキハ勿論ナリ)

(丙) 英領哥倫比亞州ニ於ケル労働市場ノ現状ニ就テハ今姑ク措テ之ヲ論セス加奈陀政府ノ見地ヨリ之ヲ謂ハハ前記大正二年十二年ノ同州移民入國禁止令ハ仮令其制定當時ノ裏面ノ動機ハ主トシテ東印度人ニ對スルモノナリシ

ニセヨ今日尚之ヲ存置スル所以ノモノハ依然トシテ新ナル労働移民ノ入國ヲ阻止スルノ必要存續スルニ由ルモノト云ハサルヘカラス
又當國移民統計表ヲ按スルニ移民ノ入國數ハ戰後年々遞減シ今尚増進ノ傾向ヲ示ササルモノアリ、仮リニ歐洲移民ハ戰亂ノ爲メ特別ノ理由アルモノトシテ之ヲ除外シ戰爭ト關係ナク而カモ當國景氣ノ「バロメーター」トモ目シ得ヘキ支那人ノ入國數ノミヲ按スルニ依然毫モ景氣恢復ヲ認ムヘキ現象ナク歐洲人同様著シク通減シタリ然ラハ則チ此際斯ル提議ヲナスハ決シテ時機ヲ得タルモノト謂フヘカラス

移民制限改訂貴案ニ對スル愚見大要上述ノ如シ尚ホ貴管内本邦人ニシテ呼寄願ヲ提出スルモノ近來頗ニ増加シタル趣ノ處事情調査ノ上確實ナル商店及農業者中眞實スル呼寄ヲ必要トスル正當ノ理由アルモノノミニ對シ呼寄證明ヲ發給セラルル御方針ヲ恪守セラルルニ於テハ優ニ現行制限ノ範圍内ニ於テ潤澤ニ許可ヲ與ヘラレ得ヘシト思考セラルルノミナラス在加日本人ノ實況ニ顧ミ若シ現行制限ノ最高限度ニ達スル程多數呼寄證明ヲ發給スルガ如キコトアリトセハ

月一日以後更ニ六ヶ月延長スル命令發布セラル但日本人ニハ從前ノ通適用ナシ委細郵便

二六四 四月七日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛

英領コロンビア州移民禁止令効力延長ニ關スル加奈陀總督命令公布ノ件

機密公第五号

(五月五日接受)

大正六年四月七日

在オタワ總領事 沼野 安太郎 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

本年三月三十一日ヲ以テ滿期トナリタルB、C、州移民禁止令ノ効力延長方ニ關スル總督命令發令ノ次第ハ往電第五号ヲ以テ申進置候処右命令ハ愈々四月七日付官報ヲ以テ公布相成候

該移民禁止令ノ効力延長及日本移民トノ關係ニ關シソノ滿期前予メ當政府ノ方針承知シ置クハ當館館長更迭ノ際ニモ有之必要ト思考致候ニ付本官ハ總理大臣「ボーデン」氏ヲ去ル二月同總理渡英前訪問致シ本件ニ關シ内意ヲ質シタル処移民禁止令ノ効力ハ引続キ延長セラルヘク又日本人ニ對

決シテ濫發ニ陥ラサル様換言スレハ好マシカラサル部類ニ屬スル移民ノ増加ヲ認容スルニ外ナラサル結果ヲ生スルノ虞ナキ様且呼寄ニ藉ロシ鑛夫伐木者等新ナル労働者ノ誘入ヲ帝國政府ニ於テ慫慂スルモノト誤解セラルルコトナキ様充分慎重ナル御考查ヲ希望致候(前記第四項參照)將又僅々一千人内外ノ伐木業者、鑛夫等ノ如キ労働者ヲ此際三年ニ亘リ新タニ誘入スルコトニ關シテハ前述各項ノ危險ヲ冒シテ迄帝國政府ニ於テ之カ貫徹ヲ籌策スルヲ利益トスヘキ理由ヲ發見難致之ヲ要スルニ貴案ノ趣旨ハ深ク之ヲ諒トスト雖モ對加移民制限ニ御來示ノ如キ改訂ヲ加フルノ議ニハ前陳各般ノ理由ニ依リ大局上乍遺憾當分賛成難致此段回答申進候 敬具
本信寫送付先 本省

二六三 四月五日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

B、C、州移民禁止令効力延長並右ハ日本人ニ適用ナキ件

第五号

客月末日滿期トナリタルB、C、州移民禁止令有効期間四

シテハ從來ノ方針ヲ確守シ事實上本令ヲ適用セサルヘシトノ意嚮ニ有之其後本月二日移民總監「スコット」氏ヲ訪ヒ内話シタル処曩ニ總理大臣ト會見ノ際得タル証言ト同様ノ証言ヲ得タルヲ以テ確定ノ上ハ公信ヲ以テ通知アリタキ旨同氏ニ及依頼置候処本月四日別紙ノ通り新總督命令相添通牒致越候、新命令ノ内容ハ旧命令ト全然同一ニ有之候得共委細別紙ニテ御承知相成度「スコット」氏來信並新移民禁止令寫相添此段及報告候 敬具
本信寫送付先 在英大使 在晚香坡領事
註 別紙省略

二六五 四月二十四日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

英領コロンビア州在留帰化日本人選挙權獲得ノ運動不成功ノ件

機密公第十号

(五月十一日接受)

大正六年四月二十四日

在晚香坡領事 浮田 郷次 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

加奈陀日本人会々長山崎寧ガ内々選挙權獲得ノ運動ニ從事

シ居ルノ趣ハ本年三月十九日付機密公第六号並ニ同月廿五日付機密公第七号ヲ以テ及報告置候処其後交渉ノ經過ニ関シテハ別紙同会長代理人タル弁護士「サー、チャールス、タッパ」ト当州首相トノ間ニ往復シタル文書ニヨリテ知ラルル如ク最後ノ決定トシテ「ブルウスター」首相ヨリハ結局諸種ノ關係上現在ニ於テハ帰化日本人（日本人会側ニ於テハ今回ハ単ニ帰化邦人義勇兵ノミノ選挙権ヲ要求シ漸次一般帰化日本人ノ選挙権ヲ獲得セントスルノ意向ナリキ）ニ選挙権ヲ附与スルコトノ要求ニハ応ジ難キ旨ノ回答有之候然ルニ山崎日会長ニ於テハ将来再ビ此種ノ問題ヲ提議スルノ場合ヲ慮リ此俟打切リトナシ置クハ不得策ナリトノ点ニ鑑ミ更ニ本件ニ関シ当局者ト面談シタキ旨ヲ申入レ本月二十一日「タッパ」氏ト同行美府ニ赴キ首相「ブルウスター」氏以下ノ各大臣ニ面会シ「タッパ」氏ヲ通ジテ「当州政府ニ於テハ仮令独塊ノ敵国人ト雖モ当州ニ帰化シタルモノニハ選挙権ヲ附与セラレ居ルノ事情ナルニツキ現ニ加奈陀軍ニ加ハリ戦死者サヘモ出セル帰化邦人義勇兵ニ対シテ選挙権ヲ附与セラレ度」旨詳細説明スル処アリタリ尤モ当局者側ニ於テハ単ニ当方ノ主張ヲ親シク聞取スル

ト云フ迄ニテ現在トシテハ其以上ニ何等具体的ノ意見ヲ述べス其俟立別レトナリタル趣ニ有之之レニテ本件ハ兎モ角一段落ヲ告ゲタルモノト被認候
右往復文写相添へ此段及報告候 敬具
本信写送付先 オタワ総領事

註 別紙省略

二六六 五月十九日 在オタワ沼野総領事ヨリ
本野外務大臣宛古島氏ノ日本移民ヲ加奈陀へ誘入計画ニ関シ
報告ノ件

機密公第七号

(六月十九日接受)

大正六年五月十九日

在オタワ総領事 沼野 安太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

本月十六日晚香港在留古島^{フルシマ}太一ナル者本邦移民加奈陀誘入計画ニ関スルB、C、州材木会社、缶詰会社、炭鉱会社等諸会社ノ賛同書並當地議員其他有力者ニ宛テタル紹介状等ヲ携ヘ本官ヲ来訪シ該計画ニ対スル本官ノ意見ヲ覓メタルヲ以テ先ツ右賛同書ヲ閱スルニ執レモ古島宛同様ノ趣旨ヲ

認メタルモノニシテ其要領ハ多数ノ加奈陀青年歐洲ニ出征ノ結果各自ノ事業ニ須要ナル労働者ノ欠乏ヲ来シタルヲ以テ現戦争継続中之ヲ補充スルノ目的ヲ以テ古島ノ日本人誘入計画ヲ賛助スト云フニアリソノ中最モ模範的ト認メラルモノハ加奈陀太平洋鉄道会社ノ晚香坡支店支配人「エフ、ダヴリリュウ、ピータース」(F. W. Peters)氏ノ賛同書ニシテ(該書面ハ浮田領事ヨリ本官宛数日前為参考送付アリタルモノト同文ニシテ別紙添付写ノ通り)右誘入ノ一条件トシテ戦争終了後又ハ加奈陀政府ノ定メタル時機ニ於テ必ス本国ニ送還スヘキ帝國政府ノ保障ヲ得ヘキコトヲ記載セリ然レトモ一旦合法ニ入国シタルモノノ加奈陀ヨリノ送還ヲ日本政府ニ於テ保障スルカ如キハ到底之ヲ与ヘ得ヘキ限リニ非ズト思考シタルヲ以テ其旨本人ニ注意ヲ与ヘ尚本官一個ノ考トシテハ斯ル計画ハ實際果シテ其必要緊切ナルモノアラバ加奈陀人側ニ於テ成案トシテ其議ヲ取纏メ之ヲ政府ニ建議セシメ加奈陀政府ヲ動かシタル後同政府側ヨリ本官ニ交渉シ来ル様仕向クルヲ上策トス日本人自ラ進ンテ其誘入ヲ促スカ如キ態度ニ出ヅルハ策ノ得タルモノニ非ズ從テ本計画ニ対シ今俄カニ賛同ヲ与ヘ難キ旨ヲ告ケタル

ニ同人ハ本計画ヲ提ケテ当地内務大臣、労働大臣其他ノ官憲並議員有力者等ヲ歴訪スル所存ナル旨ヲ語リタルヲ以テ同人退出ニ際シ右歴訪ノ結果ハ追テ本官ニモ参考トシテ通報スル様注意シ置キタリ
右ニ関シ古島ノ本官来訪ハ偶々当国政府ヲシテ右計画ニ日本政府カ何等關係ヲ有スルヤノ誤解ヲ生セシムル虞ナキヲ保セズト思考シタルヲ以テ同日直チニ内務省並労働務省當局ヲ訪問シ本件ハ自然關係官憲ノ清聴ニ入ルモノト存セララルニ付日本政府ハ同人及同人ノ計画ニ何等關係ヲ有セザルコトヲ予メ了解シ置カレ度旨ヲ注意旁々申入レ置キタリ右為御参考別紙古島宛加奈陀太平洋鉄道会社晚香坡支店支配人ノ書翰写相添へ此段報告申進候 敬具
本信写送付先 在晚香坡浮田領事

註 別紙省略

二六七 五月二十日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)英領コロンビア州議會排日的法案ノ附議無ク
閉会ノ件

第二二号

三月一日ヨリ開会中ナリシ本州議會ニ於テハ排日的法案等何等附議セラルルコトナク昨日閉会セラレタリ本年八月ニ至リ開会ノ筈

二六八 五月二十二日 在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

五月十九日休会トナリタル英領コロンビア州
議會ノ議事ニ関シ報告ノ件

公第一二九号 (六月二十日接受)

大正六年五月二十二日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

B、C、州第十四議會終了ノ件

本月二十日付拙電第二十二号ヲ以テ及電報置候通り本年三月一日ヨリ開会中ナリシ当州第十四議會ハ本月十九日ヲ以テ提出議案全部ノ議事ヲ終了シタルヲ以テ同日ヲ以テ當議會ハ一時休会スルコトナリタルガ禁酒法案ニ對スル出征軍人ノ投票ニ關スル再調査等二三未決ノ問題アリタルヲ以テ来ル八月十四日ニ至リ再び開会スルコトナリ居ルモ大体ニ於テ本年度議會ノ主ナル議案ハ之ヲ以テ終結セルモノ

ト見テ大差ナカルベク候

本年度当州議會開院式ノ当日小官ハ閣員及反對党ノ首領ト親シク談話スルノ機會ヲ得タルガ其口吻ニヨレバ本期議會ニ於テハ格別排日的問題ハ發生セザルモノノ如ク察セラレタルモ出征兵士帰還後ニ於ケル善後方ニ關シ労働問題頻リニ朝野ノ間ニ研究セラレ同時ニ東洋人排斥ノ声モ全ク止ミタルニアラザルヲ以テ日本人ニ關シテモ何時如何ナル議案提起セラレザルヲ保セザル旨ハ當時三月二日付拙電第八号ヲ以テ申進置候通りニ有之特ニ本期ノ議會ハ多年当州ノ政權ヲ握リタル保守党内閣ヲ打破シテ成立セル自由党内閣タルノ關係モアリ或ハ人氣取り等ノ手段トシテ事ノ成否ニ拘ハラズ排日的法案ノ提起セラルルガ如キコトアラズヤト常ニ注意ヲ怠ラザリシガ幸ニシテ何等排日的法案ノ提出若クハ論議サヘナスモノナカリシハ實ニ慶賀ニ堪ヘザル次第ニ有之候

本会期中ニ於テ附議セラレタル議案ハ實ニ八十一ノ多数ニ上リ其内議會ノ協賛ヲ經タル後本月十九日州知事ノ批准及裁可ヲ經テ法律トシテ發布セラレタルモノ六十七アリ其内稍ヤ本邦労働者ニ關係アリト思ハルモノハ本日付公信第

同氏ハ遂ニ辭職スルノ止ムナキニ至リ候尚又会期中大藏大臣ラルフ、スミス氏ノ逝去スルアリ或ハ又現内閣ガP・G・E及C・N・Rノ兩鐵道会社ヲ庇護スルコト甚シトテ反對党ヨリ激烈ナル攻撃ヲ加ヘラレ議會トシテハ頗ル多忙ナルモノ有之候

之ヲ要スルニ最近年当州ノ議會ニ於テハ何等カノ形式ニ於テ排日的法案ノ提出ヲ見ザルコト殆ンドナカリシガ本年ニ限り全ク其事ナカリシハ帝国政府ガ現時ノ大戰ニ際シ聯合軍側ニ加担シ居ルノ關係ヨリ之等ノ論議ヲ遠慮シ居ルニヨルコト勿論ナルモ先般議會開会前後ニ於テ帝国艦隊ノ二回程来航シタルト曩ニ加奈陀義勇軍ニ加ハリテ出征セル邦人義勇兵ニシテ戦傷スルモノ四十余名ノ多数ニ上レル等ノ事實モ亦当州ノ人氣ニ好感ヲ与フルモノニ有之尚他ニ重大ナル理由トシテハ目下当州ハ労働者ノ欠乏ヲ告ゲ邦人労働者排斥ノ如キ事実上之ガ成立不可能ナルノ状態ニアル等種々ノ原因ニヨルモノナラント被存候 敬具

本信写送付先 在オタワ總領事

二六九 五月二十九日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛

古島氏ノ日本移民加奈陀誘入運動不成功ノ件

機密公第八号

(六月二十日接受)

大正六年五月二十九日

在オタワ総領事 沼野安太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

古島太一ナル者ノ日本移民加奈陀誘入計画ニ関シテハ本月十九日付機密公第七号ヲ以テ及報告置候処其後同人ハ当地内務大臣「ドクトル、ロチー」氏並二三ノ代議士ヲ訪問シ五月十九日晚香港へ帰還スルニ際シ同人運動ノ経過ニ関シ当館々員ニ語ル所ニ依レハ内務大臣ハ古島ニ対シ同人ノ計画ヲ讚シ大臣自己ノ意見トシテハ加奈陀ハ現戦争ノ結果一般労働者ノ不足ヲ生シ痛切ニ移民入国ノ必要ヲ感シ居ル次第ナルヲ以テ此際日本政府側ヨリ何等カノ申出アラハ本計画ノ実現ハ敢テ困難ナルモノニ非ス云々ト申述ヘタル趣ナルモ其後同大臣ニ就キ本官ノ親シク聞ク所ニヨレハ同大臣ハ古島ニ対シ加奈陀政府ハ現在スル計画ヲ考量シ居ラズ又労働者不足ハ疑ナキ事実ナルモスル計画ハ之ヲ当国政府ニ申出ツル前宜シク日本総領事ノ賛同ヲ得同総領事ヲ経テ申出ツヘキ旨ヲ告ケタリトノコトニテ要スルニ同人ノ計画ニ

対シ体裁良ク論止シタルモノト察セラル斯克テ古島ハ自己ノ計画ニ関シ何等具体的ノ成果ヲ獲ルコトナク当地ヲ去ルニ至レルガ尚同人ハ当館々員ヘノ談話ニ際シ近々日本へ帰航シ政党ノ知己ヲ介シテ日本政府ヲ説キ本計画実現ニ奔走スル筈ナリト附言シタル趣ニ有之候

右ニ関シ内務大臣及労働大臣ニ面会ノ際對話ノ間ニ知り得タル所ニ依レハ政府ハ過日強制徴兵案ノ提出ヲ議會ニ予告シタル以来(往電第十号参照)労働派及「クベック」州ノ劇烈ナル反対ヲ惹起シ今ヤ現内閣ノ運命ニ関スル大問題ヲ釀成シツツアルニ顧ミ募兵ニヨリ生シタル労働者ノ不足ヲ補充スルタメ日本人ヲ誘入スルカ如キ計画ニハ容易ニ賛同シ難キ形勢アルヲ認ムルニ至リタルモノノ如クスル形勢ハ過般ノ全英帝国会議ニ於テ議決シタル印度人ノ待遇ニ関スル相互主義ノ問題ニ対シ在野党首領「ローリエー」ガ故ラニ重大ナル問題ナリト論シ暗ニ反対ノ意嚮ヲ仄カシタルニヨリテモ其一端ヲ窺フニ足ルモノアリシカ其後ノ経過ニ徴スルモスル傾向ハ労働派ノ間ニ漸ク増大シツツアルモノノ如シ從テ予テ機密公第七号及本年三月三十一日付機密公第四号信ニ記載セル卑見ノ次第モ有之本邦労働者誘入ノ計画

写

阿往機第九号

大正六年八月九日

在晚香坡領事 浮田郷次

在オタワ総領事 沼野安太郎殿

ハ宜シク加奈陀側ヨリノ申出ヲ待ツヘキモノニシテ本邦側ヨリ此際進シテ之ヲ提起スルカ如キハ決シテ策ノ得タルモノニ非ストノ感想ヲ更ニ深甚ナラシメタルモノ有之候
右為御参考及報告候 敬具
本信写送付先 在晚香坡領事

二七〇 八月九日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

日本人会ガ加奈陀在留帰化日本人ノ選挙権獲得運動ノ為弁護士ヲオタワヘ派遣ノ件

附屬書

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ在オタワ沼野総領事宛阿往機第九號写

機密公第一六号

(九月三日接受)

大正六年八月九日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

帰化日本人ノ選挙権獲得運動ニ関スル件

本件ニ関スル在オタワ総領事宛公信写御参考迄ニ及御送付候 敬具

(附屬書)

當地日本人會長山崎寧ニ於テ弁護士「サー、チャールズ、

當地弁護士「シュエボタム」氏ハ現時餘リ政界ニ勢力ヲ有セサルモ熱心ナル義務徴兵主義者ニシテ當州前内閣時代ニハ首相「パウザー」ノ手先トモナリ當領保守党トハ浅カラヌ縁故ヲ有シ日本人側ニハ從來好感ヲ持シ當地日本人會ノ参政権獲得運動等ニモ多少盡力シタルコトモ有之候處先般來「ボーデン」内閣ハ加奈陀徴兵法案ニ關シ難局ニ當リ次期ノ總選舉ニ於テハ死活ヲ決セラルヘキ運命ニ在ルヲ以テ「シュエボタム」氏ハ領政府ニ於テ目下選挙法改正案起草中ナルヲ耳ニシ此際帰化日本人ニ参政権ヲ許シ總選挙ニ於テ其投票數ヲ増加スルコトヲ得策ナルヘシトノ考ヨリ曩ニ別紙寫ノ通り「オタワ、ソリシター、ゼネラル」ニ私信ヲ送リタルニ客月三十一日附ヲ以テ好意ヲ表セル通信數日前到達セル趣ニ有之候

タツパー」ヲ通シ數月來内々交渉シ來レル歸化日本人ノ州選舉權獲得運動ハ御承知ノ如ク不成功ニ終リ候得共何分選舉權ヲ有スルニ非サレハ在留民ノ將來ハ實ニ寒心スヘキモノ有之候ニ付今般「シュエボタム」氏ヨリ右ノ提案アリシヲ機トシ當地加奈陀日本人會ハ昨夕會議ヲ開キ米貨五百弗ヲ支出シ「シュエボタム」氏ヲ貴地ニ派遣シ歸化人選舉權問題ト共ニ當路ニ向ツテ歸化日本人選舉權獲得方ニ付内々運動セシムル事ト相成候由ニ有之候間爲念此段併テ御通知申進候 敬具

寫送付先 外務大臣

註 別紙「シュエボタム」ヨリ「オタワ、ソリシター、ゼネラル」宛私信写省略

二七一 八月十七日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

加奈陀上院ニ於テ戰時中ニ限り「アジア」人

勞働者輸入ノ可否論議ノ件

第二〇号

十五日上院ニ於テ農産物ノ生産助長ニ関スル「セネートル、ニコラス」ノ調査報告中戰時ニ限り政府監督ノ下ニ亞

(附屬書)

写

阿往第一〇號(機)

大正六年八月二十一日

在晚香坡領事 浮田 郷次

在オタワ總領事 沼野安太郎殿

本件ニ關シ去八月九日附阿往機第九號ヲ以テ當地辯護士「シュエボタム」ヨリ貴地「ソリシター、ゼネラル」ニ宛テタル書簡寫及御送付置候處當地日本人會長山崎寧ハ當時更ニ「サー、シャールス、タツパー」ヲシテ同様ノ運動ヲ爲サシメ候ニ付右「タツパー」ヨリ「ソリシター、ゼネラル」ニ送レル書面寫效ニ及御送付候間御査閱相成度候 敬具

追而本件ニ關シ當地弁護士「テラー」ヲシテ在貴地「ボーデン」首相ニ運動ノ爲メ發送セシメタル書面寫別紙ノ通り之亦添附申上候也

寫送付先 大臣

註 「タツパー」ヨリ「オタワ、ソリシター、ゼネラル」宛書面写及「テラー」ヨリ「ボーデン」加奈陀首相宛書面写省略

八「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二七三

細亜勞働者ヲ輸入スヘシトノ一項ニ関シ討論アリ二三議員ハ仏蘭西ニ於ケル支那人ノ例ヲ引キ戰時中且白人ト競争ヲ生セサル時期、場所及仕事ニ限ル条件ニテ賛意ヲ述ヘタルモ自由党上院總理「ボストック」及二三議員大ニ之ニ反対セリ

二七二 八月二十一日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

加奈陀在留歸化日本人ノ選舉權獲得ノ為弁護

士タツパー氏及テラー氏ヨリ加奈陀政府当

局者宛書面写送付ノ件

附屬書

八月二十一日浮田領事ヨリ沼野總領事宛阿往第一〇號(機)写

機密公第一七号

(九月十二日接受)

大正六年八月二十一日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

歸化日本人ノ選舉權獲得運動ニ関スル件

本件ニ関スルオタワ總領事宛公信写御参考迄及進達候

敬具

二七三 八月二十二日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

禁酒法討議ノ為再開セルB、C、州議會ノ状

況報告ノ件

公第二〇二号

(九月十二日接受)

大正六年八月二十二日

在晚香坡領事 浮田 郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本年五月二十二日付公第一二九号ヲ以テ及報告置候通り第拾四回本年度当州議會ハ去ル五月十九日ヲ以テ各議案ノ討議ヲ終了シタルモ唯禁酒法ノミハ一般私選投票ノ結果否決セラレタルニ拘ハラズ禁酒派側ヨリ出征兵員ノ投票中ニ不正ノ行為アリタルコトヲ指摘シ遂ニ其実状調査ノ為メ当州ヨリ調査委員三名ヲ歐洲ニ派遣スルノ議案成立シ從テ禁酒法ハ未了議案トナリテ八月十四日ヲ期シ議員ハ再び會合ノ上前記調査委員ノ報告ヲ聴取シ其結果ニヨリテ禁酒法ヲ再討議スルコトトナリ居リタルヲ以テ予定ノ如ク八月十四日ヨリ州議會ハ再開セラレタリ

本議會ハ主トシテ禁酒法討議ノ目的ニシテ現時農繁期ニ際

シ各議員ハ出来得ル丈ケ速カニ議會ノ終了ヲ希望シ居リタルモ反対党側ニ於テハ種々画策スル所アリ一時ハ意外ニ会期ヲ長ヒカス等ノ説アリシモ幸ニシテ十四日ヨリ十七日ニ亘ル四日間ニテ閉会スルニ至レリ

十四日開会ト同時ニ議長ハ先ヅ新任検事総長兼労働大臣フアリス氏及新任大蔵大臣ハート氏ヲ議員ニ紹介シ続イテ先般倫敦ニ於テ客死セル前首相「サー、リチャード、マクブライド」(当州ノ「エヂェント、ゼネラル」トシテ倫敦ニ駐在セリ)夫人ニ対シ議會ヨリ深厚ナル弔電ヲ送ルノ件決議セラレテ後調査委員ノ報告アリタリ

右調査委員ノ報告ハ頗ル長文ノモノナレトモ大体ニ於テ出征軍人ノ投票トシテ曩ニ報告セラレタル八千四百八十八票中偽名重複、無資格、不在等ノ無効投票四千六百九十七票ノ多数アリタルコトヲ確証セルモノニシテ之等ノ不正投票ヲ除去スル時ハ曩ニ否決セラレタル禁酒法ハ却ツテ一般人民ヨリ是認セラレタルコトノ結果ヲ来セリ依テ議長ハ右調査委員ノ報告ヲ承認スベキヤ否ヤヲ議場ニ計リタルニ反対派ノ保守党首領「パウザー」氏ハ議院法ニヨレバ報告ハ印刷セラレタルモノタラザルベカラズトテ手続上ヨリ之ニ抗

議シ会期ヲ延期セシメントシタルモ便宜上ノ処置トシテ右報告ハ直チニ採択ノコトニ多数党ヨリ承認セラレ依テ十五日、十六日ノ両日ニ亘リ禁酒法ノ施行期日其他ニ関スル討議アリ一議員ノ反対アリシモ大勢既ニ定マリ遂ニ十月一日ヨリ実施スルコトノ決議ヲ通過シ十七日閉会日ニ於テ禁酒法ハ知事ノ裁可ヲ經テ法律トシテ公布セラレタリ其詳細ハ本日付公第二〇一号ヲ以テ報告ノ通りニ有之候

右ノ外本議會ニ於テ討議ノ上知事ノ裁可ヲ得タルモノニValidation Act アルモ重要ノモノニアラズ

本議會ハ前記ノ如ク禁酒法ノミヲ討議スル筈ナリシモ反対派ハ此機会ヲ利用シテ奇利ヲ博セントシ遂ニ現内閣ノ失政二十九個条ヲ列記セル不信任案ヲ提出シ右ハ十九日ニ討議スルコトトナリ居リタルモ目下ハ各産業共ニ最モ多忙ナル時ニシテ一般議員ハ只管帰郷ヲ急ギツツアリシヲ以テ議會ハ十七日ヲ以テ閉会セラレ從テ不信任案ハ討議セラルルニ至ラザリシモ反対党ヨリノ質問ハ頗ル多数ナリキ

「パウザー」ノ提議セル不信任案ハ各方面ヨリ現内閣ノ施政ヲ攻撃セルモノナルガ其内不信任ノ一理由トシテC・N・R・ガ州政府トノ協約ニ反シテ晚香坡島ノ鉄道工事ニ東洋

人ヲ使用セルコトヲモ不都合ナリトテ是ヲ不信任案中ニ明記シ居レリC・N・R・ト州政府トノ間ニハ土地地下ノ一

条件トシテ右ノ如キ東洋人排斥ノ協約アルコトハ事実ナルモ現時ノ如ク労働者不足ノ際偶々C・N・R・ニ於テ少数ノ東洋人ヲ鉄道工事ニ使用シタリトテ之ヲ以テ不信任ノ一理由トスルガ如キハ如何ニ当州ノ政党者ガ徒ラニ東洋人ノ排斥ヲ以テ白人労働者ノ欲心ヲ得ントスル因習の党略ニ捉ハレ居ルカヲ明示スルモノニ有之候遮莫当州第十四議會ニ於テハ何等排日的ノ言論ヲ聞カズ又各地白人労働者モ近来大ニ邦人労働者ト接近シ来リ最近ニ於テ本邦人ニシテ労働組合加盟ヲ許可セラレタルモノサヘアルニ至リタルハ好良ナル傾向ト認メラレ候

右及報告候 敬具

二七四 八月二十二日 在オタワ沼野総領事ヨリ
本野外務大臣宛

從軍投票者法案ニ関シ報告ノ件

機密公第一〇号 (九月十二日接受)

大正六年八月二十二日

在オタワ総領事 沼野 安太郎 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

從軍投票者法案ニ関スル件

今回加奈陀政府ハ加奈陀領域ノ内外ヲ論セス苟モ現戦争ノ現役実務ニ従事シタル総テノ者ニ対シ次ノ総選挙ニ選挙権ヲ付与スル目的ヲ以テ從軍投票法案ナルモノヲ立案シ司法大臣「ダハター」氏ヲシテ八月十三日之ヲ下院ニ提出セシメ同月二十日第二議會ニ入リタル次第ハ往電第二一号ヲ以テ要領申進置候処右法案ハ加奈陀ヘ帰化セル日本人ニシテ加奈陀軍ニ從軍セルモノニモ次ノ総選挙ニ投票権ヲ与フルニ至ルベキモノナルヲ以テ該法案適用ノ範圍ニ関スル要領左ニ申進候

該案ハ之ヲ千九百六年重修加奈陀法典第六編加奈陀選挙法ノ第四章トシテ追加セントスルモノニシテ該法案規定ノ全部ハ『現戦争中又ハ平和克復後動員全部ノ帰郷完了ニ至ル迄ノ間ニ行ハルコトアルベキ総選挙ニ限り適用セラルルモノトス』トノ限定的総括規定ヲ以テ始マリ本法ニ所謂從軍投票者トハ男女ヲ論セズ又加奈陀ニ定住セルト否トヲ問ハズ未丁年者ニテモ印甸人(「アメリカインディアン」ヲ指ス)ニテモ苟モ英国臣民籍ヲ有スルモノニシテ加奈陀領内

又領外ニ於テ左記ノ諸隊ニ將校、兵卒、水兵、齒科医、看護人、飛行者、機械匠等トシテ任命、徵募、加入、招集セラレ現ニ其職ニ在ルカ若ハ順当ニ其職ヲ免セラレタル者ヲ指ストナセリ

- 一 加奈陀外征部隊 Canadian Expeditionary Force
 - 二 英領加奈陀海軍 Royal Canadian Navy
 - 三 現役ニアル加奈陀護郷軍団 Canadian Militia on Active Service
 - 四 英領加奈陀海軍義勇予備兵団 Royal Naval Canadian Volunteer Reserve
 - 五 加奈陀内ニテ募集ニ係ル英国飛行兵団 British Royal Flying Corps
 - 六 加奈陀内ニテ募集ニ係ル英国海軍航空部 Royal Naval Aviation Service
 - 七 加奈陀内ニテ募集ニ係ル補助巡邏発動機艇部 Auxiliary Motor Boat Patrol Service
- 而シテ前掲從軍投票者ハ総選挙ニ於テ投票ノ資格アルモノトシテ投票權ヲ有スト規定セリ
- 又該法案ハ其第十二条第五項ニ於テ從軍投票者ハ必スシモ

候補者ノ氏名ヲ用紙ニ記入セス簡單ニ政府党又ハ在野党若ハ独立ノ他ノ一党ニ投票スル旨ヲ印刷セル投票用紙ノ当該欄内ニ単ニ十字×ヲ画スレバ(附属書第十五頁參照)其当該党派ノ公認候補者ニ投票シタルモノト看做ス旨ヲ規定シ臨戰地帯等ノ如キ遠隔ノ地ニアリテハ候補者ノ氏名ヲ詳ニシ難キ投票者ニハ至極便利ナル規定ヲ包含シ又一定ノ選挙区ニ属セサル投票者ニハ自己ノ任意ニ選択セル一選挙区ニ之ヲ振り向クルヲ得トノ規定(第三条第三項)モアリ

右ニ対シ在野党中ニハ從軍者ノ多数ハ徵兵論者ナルベク從テ現政府党タル保守党ノ熱心ナル擁護者ナルベシトノ予想ヨリ該法案ヲ以テ成ル可ク多数ノ現政府擁護ノ投票ヲ獲得セントスル一ノ魂胆ナリト批難スルモノモアリ又一定ノ選挙区ニ属セサル投票者ハ任意ニ之ヲ何レカノ一選挙区ニ振り向ケ得ベシトノ規定ハ反对党ノ有力者ヲ落選セシムルタメ其選挙区ニ斯ル投票ヲ集中シ得ルノ弊竇ヲ生スル虞アリトノ批難アリ又本法案ノ規定ハ加奈陀軍ニ從軍セル英国臣民籍ニアル総テノ者ヲ網羅スルニ拘ハラス加奈陀人ニシテ英国ニ渡航シ英国ノ陸海軍ニ從軍シタルモノヲ脱漏セルハ公平ヲ失ストノ議論モアリ右ニ対シテハ投票蒐集ノ困難等

二七六 九月十六日 在オタワ沼野総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

加奈陀ニ於テ政府提出ノ戰時選挙法案下院通過ノ件

第二五号

九月六日下院ニ提出ノ政府案戰時選挙法ハ十五日下院通過上院ニ廻附セラル該法案ハ戰時中平和克復迄ノ間ニ行ハルヘキ総選挙ニ限り適用セラレ千九百二年以後加奈陀ニ帰化セル敵国人種及信仰上ノ理由ヨリ兵役ヲ肯ンセサルモノノ選挙權ヲ停止シ從軍者ノ家族タル英国臣民籍ヲ有スル妻、母、娘、姉妹、孀ニシテ年齢人種居住ニ関シ州選挙法ニ反对ノ規定ナキモノニハ選挙權ヲ与フル旨規定セリ故ニ從軍帰化日本人ノ英国籍ニアル家族タル女子ニシテ「ビー、シリ」州以外ニアルモノハ選挙權ヲ有ス

二七七 九月十八日 在オタワ沼野総領事ヨリ
本野外務大臣宛

古島氏ノ日本移民カナダ誘入計画ニ関シ続報ノ件

機密公第一一号

(十月十日接受)

又領外ニ於テ左記ノ諸隊ニ將校、兵卒、水兵、齒科医、看護人、飛行者、機械匠等トシテ任命、徵募、加入、招集セラレ現ニ其職ニ在ルカ若ハ順当ニ其職ヲ免セラレタル者ヲ指ストナセリ

- 一 加奈陀外征部隊 Canadian Expeditionary Force
 - 二 英領加奈陀海軍 Royal Canadian Navy
 - 三 現役ニアル加奈陀護郷軍団 Canadian Militia on Active Service
 - 四 英領加奈陀海軍義勇予備兵団 Royal Naval Canadian Volunteer Reserve
 - 五 加奈陀内ニテ募集ニ係ル英国飛行兵団 British Royal Flying Corps
 - 六 加奈陀内ニテ募集ニ係ル英国海軍航空部 Royal Naval Aviation Service
 - 七 加奈陀内ニテ募集ニ係ル補助巡邏発動機艇部 Auxiliary Motor Boat Patrol Service
- 而シテ前掲從軍投票者ハ総選挙ニ於テ投票ノ資格アルモノトシテ投票權ヲ有スト規定セリ
- 又該法案ハ其第十二条第五項ニ於テ從軍投票者ハ必スシモ

ニ顧ミ之ヲ加ヘサリシモノナリトノ司法大臣ノ説明アリシモ要スルニ本案ハ其ノ大体ノ趣旨ニ於テ異議ナキモ各種ノ方面及理由ヨリ反对論相応ニ劇烈ナルヲ以テ愈兩院通過ニ至ル迄ニハ種々ノ曲折修正ヲ見ルコト疑ヲ容レズト思考セラル

之ヲ要スルニ本法案ハ帰化日本人ニ一時的ニモセヨ選挙權ヲ賦与セントスル点ニ於テ我注意ニ値スルモノト思考被致候条右關係要領別紙法案原文一部添付為御参考此段報告申進候

本信写送付先 在晚香坡領事 在米大使 在英大使

註 別紙省略

二七五 八月二十五日 在オタワ沼野総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

加奈陀上院アジア人労働者輸入案ヲ特別委員会ニ返付ノ件

第二三号

往電第二〇号上院ハ引続キ討議ノ末一先ツ該報告ヲ特別委員ニ返付シ再調査ヲ為サシムルコトナレリ

在晚香坡領事ヘ済ミ

大正六年九月十八日

在オタワ総領事 沼野安太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

曩ニ本年五月二十九日付機密公第八号信ヲ以テ申進置候古島太一九月六日再ヒ当館ヲ来訪シ別紙写ノ加奈陀内務大臣宛英文請願書類ヲ本官ニ展示シ右本書ハ同日朝既ニ加奈陀内務大臣ニ提出済ナル旨ヲ述ベ本官ノ公然トナク之ニ援助ヲ与ヘンコトヲ申出テタルニ付一応右願書ノ内容ヲ閱スルニ

第一号書類ハ古島ガCanadian Japanese Trading Syndicate ト契約ヲ結ヒ本邦労働者ヲ供給シ Canadian Japanese Trading Syndicate ハ更ニ加奈陀領内ニ於テ各方面ニ是等労働者ヲ供給スル Employment Agent ノ業務ヲ行ハンガ為メ右契約ニ対シ加奈陀政府ノ允許ヲ得ントスル内務大臣ドクトル、ローチー氏宛請願書ナリ

第二号書類ハ古島ト前記 C・J・T・S・トノ労働供給契約ニシテ古島ハ一万人ニ達スル迄本邦契約労働者ヲ C・J・T・S・ニ供給シ労働契約期間ハ三年若ハ戦争終熄後六ヶ月又ハ加奈陀政府ガ適當ナリト認ムル時機迄

トシ労働ノ種類ハ伐木、製板、採木、畠山、農業、機械匠等ニシテ労働ハ時間払トシ技能ニ応シ一時間十五仙乃至四十仙ヲ給シ毎月之ヲ支給シ晚香坡迄ノ渡航費ハ本人ノ自弁ナルモ晚香坡ヨリ労働地迄ノ舟車料ハ傭主ノ負担トシ移動中及就働中ノ食料ハ本人賄トス又奇災傷害保険ハ傭主ノ責任ナルモ右保険料金ノ一部トシテ一ヶ月三十五仙ツツヲ本人ニ負担セシムルコトヲ約シ古島及C・J・T・S・代表者タル「コフーン」(同氏ハ日本人義勇兵ノ徵募訓練ニ従事シタル Captain Rabt. Colquhoun ナリ)兩人ノ署名アルモノナリ

第三号書類ハ森岡移民株式合資会社代表者トシテ瓜生治ガ在東京英国副領事館ニ於テ為シタル同移民会社ノ業務、信用、資本金及社員等ニ関スル declaration ニシテ同社ハ浅野良三ヲ社長トシ五十万弗ノ資本金ヲ有スル等ノ事実ヲ記載シ前記副領事ノ本年八月十三日付証明アリ

第四号書類ハ古島ト森岡移民会社代表者瓜生治トノ間ノ契約ニシテ古島ハ歐洲戦争中本邦労働者誘入ニ対スル加奈陀政府ノ允許ヲ得ルニ尽力シ森岡移民会社ハ所要ノ労働者

働者ヲ本邦ヨリ供給シ渡航ニ必要ナル手続及輸送ヲ完フスルノ任ニ当リ又戦争終熄後六ヶ月以内又ハ加奈陀政府ノ命スル時機ニ右移民ヲ本邦ヘ還送スルコトヲ約セルモノニシテ本年八月十三日付在東京英国副領事ノ証明アリ

本官ハ右ニ対シ何等明答ヲ避ケ追テ右請願書ニ関シ当局ヨリ何等照会アル迄ハ本官トシテハ差当リ何等措置ヲ採ルヘキ要ヲ認メサル旨ヲ告ケ猶本件ハ元来加奈陀政府ニ於テ先ツ其計画ヲ決定スヘキ案件ニシテ其以前ニ帝國領事官ガ予メ此問題ニ関与スルハ帝國政府トシテモ將又古島ノ利益ノ為メニモ反リテ面白カラザルベキヲ以テ加奈陀政府側ヨリ本官ニ照会アル迄ハ本官ハ何等之ノ問題ニ関知セサリシコトト了解シ居ルヘキ旨ヲ注意致置候越エテ翌日内務大臣「ローチー」氏ヨリ本官ノ来省ヲ促シ前記請願書ノ本書ヲ本官ニ展示シ之カ一読ヲ求メ同大臣ハ十日朝再会ヲ約シ同日ハ他用ヲ以テ間モナク退庁セラレタリ依テ約ヲ履ミ十日朝再ヒ内務大臣ヲ往訪シタルニ同大臣ハ本請願ニ関スル卑見ヲ求メラレタルヲ以テ本官ハ之ニ対シ元来本件ハ帝國政府ハ初メヨリ毫モ関与セサル案件ニシテ本官モ過般本書閱覽ノ際初メテ之ヲ承知シタル程ノ次第ナレハ本件ハ加奈陀

政府ニ於テ既ニ之カ許否ニ関スル大体ノ方針ヲ定メラレタルコトヲ信ジ順序トシテ先ツ加奈陀政府ノ之ニ対スル大体ノ意嚮ナリトモ承知シ度キ旨ヲ述ベタルニ同大臣ハ總理大臣目下病臥中ニテ未タ打合セノ機会ヲ得サル為メ斯ル方針ヲ明言シ難キモ自分一己ノ見解ヲ以テスレバ国内労働者ノ欠乏ハ事実ナレトモ過般支那労働者誘入ニ関スル提議アリタルニ対シテモ今日迄未ダ許可ヲ与ヘ居ラサル程ノ次第ナレバ若シ本件ヲ許可スルトセバ自然支那人誘入ノ請願ヲモ併セテ同時ニ許可スル必要アリ斯クテハ総選挙ヲ目前ニ控ユル今日B、C、州其他ニ於ケル労働派及自由党ノ之ニ対スル大反対ヲ惹起シ彼等ニ政府攻撃ノ絶好ナル辞柄ヲ供スル結果トナリ選挙ニ対スル党略上頗ル躊躇セザルヲ得ザル次第ナルヲ以テ首相トシテモ差当リ之ニ許可ヲ与フルコトハ頗ル困難ナルベシト思考セラルル旨ヲ答ヘラレタリ依テ本官ハ本件ニ関シテハ勿論未ダ帝國政府ニ請訓ノ機会ヲ有セザリシ次第ナルヲ以テ何等卑見ヲ言明シ難キモ内務大臣ニ於テ首相ト打合ノ結果帝國政府ニ照会ノ必要アリト認メラルル場合ニ到達セバ本官ハ喜ンデ之ヲ帝國政府ニ電照スヘキモ本件此仮ニテハ差当リ斯ル措置ヲ採ル程ニモ達シ

八「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二七八 二七九 二八〇

二七六

戰時選舉法案加奈陀議會通過ノ件

第二七号

往電第二五号戰時選舉法案ハ要点大体原案ノ俣十九日上院通過二十日下院ノ同意ヲ得議會ヲ通過セリ

晚香坡濟

二七九 九月二十三日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

從軍投票者法案加奈陀議會通過ノ件

第二六号

八月二十二日付機密第一〇号從軍投票者法案ハ多少ノ修正アリシモ要点大体原案ノ俣九月十四日上院通過十九日下院ハ右修正ニ同意シ兩院ヲ通過セリ

晚香坡濟

二八〇 十月九日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

B、C、州移民禁止令有効期間六ヶ月延長ノ件

第三一号

往電第五号ビ、シー州移民禁止令有効期間ヲ十月一日以

註 別紙省略

二七八 九月二十一日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

後更ニ六ヶ月延長スル命令發布セラル但シ日本人ニハ従前ノ適用ナシ委細郵便
在晚香坡領事濟

二八一 十月十日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛

B、C、州移民禁止令効力延長及其ノ日本移民ニ適用無キ旨報告ノ件

機密公第一五号

(十一月八日接受)

大正六年十月十日

在オタワ總領事 沼野安太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本年九月三十日ヲ以テ満期トナリタルB、C、州移民禁止令ノ効力延長方ニ関スル總督命令発令ノ次第ハ往電第三一号ヲ以テ不取敢報告申進置候処右禁止令ハ従前通り日本移民ニ適用ナキモノト思考セラルルモ為念移民總監「スコット」氏ヲ訪ヒ之ヲ同氏ニ質シタル処新命令ハ旧命令トソノ内容ニ於テ何等変化ナク又日本人ニ対シ適用セザルコト勿論ナル旨ノ証言ヲ得タルニ付更ニ公信ヲ以テ通知アリタキ旨ヲ依頼シ置キタル処本日別紙ノ通り通牒致越候間右様御

八「カナダ」ニ於テ本邦移民排斥關係一件 二八一 二八二

了承相成度「スコット」氏来信写並新命令掲載ノ官報切抜相添此段報告申進候 敬具

本信写送付先 在晚香坡領事 在英大使

註 別紙省略

二八二 十二月十七日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
本野外務大臣宛

加奈陀自由党首領ロリーエーノ總選舉応援演説中日本移民制限ニ関スル所言ニ付報告ノ件

附屬書 右演説中日本移民制限ニ關スル所言要領

公第三一九号

(大正七年一月五日接受)

大正六年十二月十七日

在晚香坡領事 浮田郷次(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

自由党首領サー、ウィルフリッド、ロリーエーハ本日ヲ以テ行ハルヘキ領總選舉ニ対スル自党员応援ノ為メ今般西部諸州遊説ノ序ヲ以テ去ル十四日午前当地ニ来リ晚香坡ホテルヲ始メ市内数ヶ所ニ於テ其政見ヲ發表シ自党候補者ノ援助ニ努メ同夜帰東致候尤モ今回ノ總選舉ニ対スル西部諸州ノ態度ハ時局ニ鑑ミ政府側ニ有利ナルモノアリ当州ノ如キ

二七七

モ自由党派ノ勝利ハ覺束ナカルヘシト觀測セラレ居ルモ、「ローリエ」氏ノ演説ハ多大ノ興味ヲ以テ迎ヘラレ氏ハ海軍問題、関税問題、徴兵問題、婦人参政權問題等各方面ニ論及シ自党ノ立場ハ加奈陀民ノ利益ヲ尊重セルモノナルコトヲ巧ニ説明スル所有之其内日本移民制限ニ対スル同氏ノ見解ハ多少参考トナルベキモノト認メラレ候ニ付右要領ヲ別紙ノ通り訳出及送付候間御査閲相成度此段及報告候

敬具

(附屬書)

「サー、ウィルフリッド、ローリエ」ノ演説中日本移民制限ニ關スル所言要領

余カ晚香坡ニ來リシハ既ニ七年前ナリキ、當時ニアリテ余ハ他方面ヨリノ攻撃ニ對シ自衛セザルベカラザリシモ加奈陀ノ爲メニ、否英本國及英帝國進ンデハ文明各國ノ爲メニ最モ有利(當時ニ於テ其利益ハ實現スル能ハザリシモ)ナリト思ハルル態度ヲ保持シタリ即チ當時加奈陀民特ニB、C、州ニ對スル問題ハ日本人労働問題ニシテB、C、州ニ於ケル労働社會ハ不安ニ充チ東洋人労働者ヨリ不當ナル競争ニ際會セル苦痛ハ彼等ヲシテ其救済策トシテ日本人ニ對

シテモ支那人ニ對スルト同様ノ處置ニ出デザルベカラザルコトヲ要請セシムルニ至レリ即チ労働ノ目的ヲ以テ加奈陀ニ入國スル日本人ニ對シテ人頭税ヲ課スルコト之ナリ我黨ハ支那人ニ對シテハ前記ノ處置ヲナセリ恰モ時ノ政府ノ首領タリシ「サー、ジョン、マクドナルド」氏ハ之ヲ決行シ加奈陀ニ入國スル各支那人ニ對シ百弗ノ人頭税ヲ賦課シタルガ余自ラ執務スルニ至リテ百弗ヨリ之ヲ五百弗ニ引上ゲタルモ日本人ニ對シ之ヲ課スルコトハ拒否セリ何故ニ然ルヤト云フニ其理由ハ公文書中ニモ殘シ置ケルモ又余自ラ當市演壇ニ於テ説明スル所アリタルガ如ク日本皇帝陛下ハ我皇帝陛下ト同盟國ナルガ故ニ入國者ニ對シテ人頭税ヲ課スルガ如キ恥辱ヲ彼レガ臣民ニ與フルコトヲ欲セザリシヲ以テナリ

然レトモ禍根ハ存在シ而シテ之ヲ解決セザルベカラザルコトモ亦認ムルニ咨ナラズ唯之ガ解決方法ニ至リテハ余ノ贊スル能ハザル所アリシナリ、余ハ云ヘリ「本問題ハ強制ニヨラズトモ勸告ニヨリ何トカ解決セラルベク暴力若クハ敵對的法規ヲ制定セズトモ之ヲ交渉ニ讓ルヲ得ベシ」依テ余ハ日本政府ニ對シ我が同僚ヲ代表者トシテ特派シ「日本ヨ

リB、C、州ニ來ル移民ニ對シテハ日本政府ニ於テ自ラ之ヲ制限スヘキモノナルコト」ヲ呈示セシメタリ蓋シ彼ト我トハ文明程度ヲ異ニシ日本人労働者ハ低率ノ労働ニ甘ンジテ競争者タル白人労働者ヨリモ低廉ナル賃金ヲ得ツツアリ之レ禍根ノ存スル所ニシテ兩國國民ノ間ニハ和衷平靜ヲ見ル能ハズ却ツテ不調和ヲ醸セリ

余ハ彼ニ告グルニ我等ガ相互ニ同盟國タル以上ハ日本政府モ亦我加奈陀ノ住民ニ對シ好意ヲ保持表顯スルノ途ヲ講ゼザルベカラザルモノナルコトヲ説明シ且之ヲ徹底セシメタリ斯クシテ我政府ハ日本政府自ラ移民ヲ制限スルコトニ協議ヲ遂ゲ以來彼國ハ今日迄之ヲ履行シ來リ又爾來何等不平ノ聲ヲ聞クコトナカリキ、而シテ戰亂ノ勃發ニ際シ我英帝國ガ獨逸ニ宣戰ヲ布告スルヤ否ヤ日本國亦直チニ獨逸ニ宣戰スルニ至リシハ余輩ノ大ニ満足スル所ナリト云ハザルベカラズ

余カ提議且ツ遂行シタル此政策ハ保守黨側ヨリ多大ノ攻撃ヲ受ケ反對黨ノ首領タル、「サー、ロバート、ボーデン」氏一人ノミナラス一般モ亦外國ノ好意ニ信賴スルカ如キハ加奈陀民ノ恥辱ナルコトヲ唱道セリ苟モ吾人ガ世界ニ其文

明ヲ發揚セント欲セバ須ラク協商ニヨリテ事ヲ決セザルベカラズ、各國ト平和ヲ持スルノ途ハ他國ヨリノ協商ヲ認容スルノ謂ニシテ爾來今日ニ至ル迄日本國ハ依然トシテ我同盟國タルコトハ余ノ欣喜ニ堪ヘザル所ナリトス當時英帝國ノ權利ニヨリテ立テル「インペリアリスト」ハ何人ナリシヤ、英帝國ノ同盟國ニ對シテ侮辱ヲ與ヘントシタルモノハ反對黨ナリシヤ將又我帝土ノ名譽ト尊嚴トヲ保持センガ爲メニB、C、州ヨリ得ベカリシ援助ヲ賭スル迄ニ至リタル余自ラナリシニヤ

然リ余ハ當時B、C、州ノ援助ヲ失ヘリト斷言ス、余ハ同問題ニ對スル我主義ノ爲メニ援助ヲ失ヘリト云フベケンモ而カモ余ハ當時ノ態度ヲ悔ユルコトナク却ツテ爾後ノ經過ヲ目睹シテ我意ヲ得タリト思ヒツツアルモノナリ

二八三 十二月十九日

在ヴァンクーヴァー浮田領事ヨリ
中村通商局長宛

古島氏ノ日本移民カナダ誘入計画ニ賛同シ難

キ旨開陳ノ件

附屬書

十二月十九日附在「ヴァンクーヴァー」浮田領事ヨリ在「オタワ」沼野総領事宛書信寫

親展

大正六年十二月十九日

在晚香坡 浮田 領事

中村通商局長殿

日本移民加奈陀誘入計画ニ関スル件

本件ニ關シ別紙ノ通り沼野總領事ニ申送り候間寫御參考ニ
供シ度候 敬具

(附屬書)

写

親展

大正六年十二月十九日

在晚香坡 浮田 領事

在オタワ 沼野總領事殿

拜啓陳者曩ニ本件ニ關シ大臣宛機密公第一一號御報告寫御
轉送閱悉原來右計畫者タル古島太一ナル者ハ小生面識ナク
又道路ノ評判モ餘リ香シカラザル者ニ有之候處同人ハ去ル
九月下旬初メテ小生ヲ來訪シ貴信添付ノ請願書類ヲ示シ從
來ノ成行ヲ陳ヘ小生ノ贊助ヲ求メ來リ候
貴信ノ趣ニヨレハ加奈陀政府ニ於テハ當時黨略上該請願ヲ

許可スベキ模様ナカリシモ既ニ總選舉モ濟ミ政府黨ノ勝利
ニ決シタル今後ニ於テ或ハ詮議ノ上許可セラレヌトモ限ラ
ス他方古島ノ言ニヨレハ本省當局者ニ於テモ多少耳ヲ傾ケ
居ラルモノノ如ク其事情ハ去ル十月中當地經由東行セル
本邦旅客談トシテ間接傳承候事モ有之候當領労働者ノ欠乏
ハ今日ニ初マリタル次第ニハ無之去レハコソ到底實行困難
トハ存シナガラ去ル三月中移民制限緩和方ニツキ御協議モ
申上候様ノ次第ニ有之候得共今若シ古島計畫ノ如ク一萬ノ
多數ニ上ル本邦移民渡來シ來ランカ戰爭ノ結果白人々口ノ
減少セル西部諸州ニ於テハ特ニ著シク外觀ニ目立ツ事ト相
成リ戰時中ニ拘ハラス排日論ヲ誘起スルハ火ヲ賭ルヨリ明
カナル事ニ有之先年約三四千ノ布哇轉航移民渡來當時ノ事
情ヲ追想セハ其結果ノ如何思ヒ半ハニ過グルモノ有之候
労働者ハ確ニ欠乏致シ居リ候ニツキ誘入方法宜敷ニ於テハ
當方面産業ニ益スルモノ多大ナルモノ可有之候得共年限ヲ
定メテノ契約移民ノ如キハ到底取締付クモノニ無之就テハ
領政府ニ於テモ果シテ移入ヲ賛スル意向アルニ於テハ小生
ハ矢張り前説ヲ維持シ移民制限緩和ノ方法ニ出テ個人的且
ツ責任ヲ感スル事薄キ前述營利的移民誘入計画ニ對シテハ

寫 中村局長

異議ナキ能ハス候處最近聞ク所ニヨレハ古島ハ此程再ヒ歸
朝候趣ニツキ本件ノ如キモ如何ニ相運ヒ不申トモ限ラス候
ニツキ愚見ノ存スル處御含迄申進置度早々敬具